

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度（令和2年度）	科目名	資格対策講座1	
科目基礎情報					
開設学科	AIシステム科	コース名	—	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	2単位	開講時間		授業形態	講義
教科書/教材	改訂3版 情報活用1級・2級完全対策公式テキスト 文部科学省後援／一般財団法人職業教育・キャリア教育財団監修				
担当教員情報					
担当教員			実務経験の有無・職種		
学習目的					
情報社会の中で情報を「使う」能力に加え、「情報社会を生き抜く力」「ビジネスへ応用できる力」を養い、実践的な力を身に着けるためのスキルを習得する。情報社会の進展に伴い、ビジネスの現場において主体的に業務を遂行する基礎的能力、クライアント環境のコンピュータと各種機器の役割と機能、ソフトウェアの種類と機能、ネットワークやデータベース、および情報モラルやセキュリティなどの基礎知識を有し、活用することが求められる。					
到達目標					
習熟度を測り、能力を証明するために情報活用検定2級の合格を目標とする。情報社会で活躍できる実践的スキル習得のため、情報の理念を理解し、経営戦略とシステム戦略の基礎知識（コーポレートガバナンス QC PPMなどのマーケティング分析 CRM SFAなど）、プロジェクトマネジメントに関する基礎知識（PMBOK WBS SLA インシデント管理 システム開発技法など）、パソコンの基礎知識（コンピュータの種類、動作原理、周辺機器、インタフェース、環境設定など）、インターネットの基礎知識（ネットワークトポロジ 利用形態 WebブラウザやEメールソフトの活用など）、アプリケーションソフトの基礎知識(表計算ソフト プレゼンテーションソフト)を身に着けることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	全員が情報活用検定2級に合格することを目標に、試験範囲の講義に加え、過去問演習、解説を行う。習熟度確認のための小テスト、家庭学習課題等、授業の進捗に合わせて適宜実施し、評価に組み入れる。また、前回の講義内容を理解し習得済みであることを前提とした講義を行う。理解不足は放置せず、復習してから講義に臨む必要がある。				
注意点	教科書を忘れずに持参すること。資格試験は、講義時間内の学習だけでは合格困難であり、学生自身が主体的に自宅学習を進めることが肝要である。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応をする。理由の無い遅刻や欠席は認めない。講義に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーを守ることを求める。（詳しくは、最初の授業で説明。）授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	60%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート				
	成果発表 （口頭・実技）				
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回） 1回（2）時間 ※45分を1時間とする					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ガイダンス 情報表現について		本講義の意義を理解する。また、試験概要、出題範囲について知る。基数変換、負数表現を学び、過去問題を理解して解くことができる		
2回	情報と情報の利用		文字コードなどコンピュータの情報表現を学び、情報整理分析手法の利用法を身につけ、過去問題を理解して解くことができる		
3回	コンピュータの種類と動作原理		コンピュータの種類、や動作原理、周辺機器の種類と役割について学び、過去問題を理解して解くことができる		
4回	ネットワーク(1)		インターネットの基礎知識、ネットワークの概要、トポロジについて学び、活用できる		
5回	ネットワーク(2)		LANの構築、ネットワークセキュリティについて学び、過去問題を理解して解くことができる		
6回	アプリケーションソフトの基礎		ソフトウェアの種類と利用法（プレゼンテーション、データベース、表計算）について学び、過去問題を理解して解くことができる		
7回	表計算ソフトの仕組み		表計算ソフトの仕組み（絶対/相対参照、関数、グラフ）を知り、活用できる		
8回	情報モラル、セキュリティ		情報ネットワーク社会への対応、モラル、セキュリティについて学び、過去問題を理解して解くことができる		
9回	経営戦略とシステム戦略		企業活動の目的や経営管理、組織についてや、企業会計や労働、取引関連法規について学び、過去問題を理解して解くことができる		
10回	プロジェクトマネジメント		システム開発の流れ、PM、監査、サービスマネジメントについての知識をつけ、過去問題を理解して解くことができる		
11回	過去問題演習(1)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（ストラテジ系の対策を万全にする）		
12回	過去問題演習(2)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（マネジメント系の対策を万全にする）		
13回	過去問題演習(3)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（テクノロジー系の対策を万全にする）		
14回	過去問題演習(4)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（アプリケーションソフト問題の対策を万全にする）		
15回	過去問題演習(5)		過去問題の演習、解説を実施し、合格を目指す（総合問題演習を行い合格ラインの点数を取る）		